

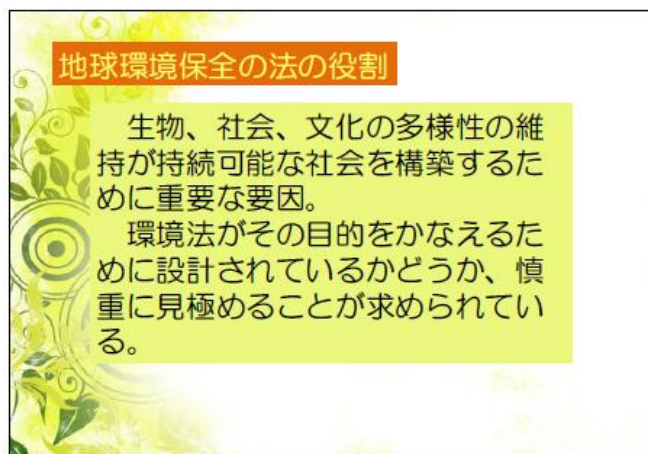
静岡市環境大学2018 講座報告 1日目

演題：環境法の体系 ～生物多様性条約を起点として～

常葉大学社会環境学部 准教授 小杉山晃一 様

場所：しずもーる沼上3階研修室

日時：平成30年6月9日（土）10時45分から12時00分まで



講義のポイント

要点1：遺伝的多様性

- 穀物、野菜、家禽、家畜の多品種
- 経済性とは別の観点で、継続的に保存する仕組み

要点2：マイナー品種を残す

要点3：原種地域での原種の保存

- 食用動植物の原種の生息域内保全の確保

要点4：知的財産権の再考

受講生の感想など

- ★ タマゴはいつの時代でも景気や物価の影響をほとんど受けず安定した供給をさせていることから、かなり工業化の進んだシステムになっている気はしていましたが、まさかニワトリの遺伝的側面からも効率化されてしまっているとは思いませんでした。気付かない所に大きな危機がひそんでいることがよくわかりました。
- ★ カルタヘナ法の具体的内容←自宅調べたい気持ちになりました。
- ★ 私にとって身近なテーマはないので、理解に時間がかかると思いました。その反面、環境に対し多様な見方を身に付ける上で、良い内容だと思いました。